

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 空間局在・分子超潤滑に基づく時空間空隙設計と高機能表示材料創生
2. 研究代表者： 山本 潤 （京都大学大学院理学研究科 教授）
3. 中間評価結果

日本がかつて世界を席卷した液晶表示材料の研究課題として、その復活に向けた技術課題を系統的に分類整理し、ナノ液晶によるスリッパリー現象を高速・低エネルギー消費作動の液晶材料実現に応用する研究諸課題に取り組んでおり、ほぼ予定通り進展している点は評価できる。研究課題が多層構造、多重構造であるため、研究の進捗が見えにくい部分もあるが、本課題領域での成果の発信はステルス性が要求されるべきであり、研究目標地点近くまで到達した時点で初めて開示されるようなものと考えており、完成度の高い学術論文が本研究課題の成果物として発表されることを期待している。

一方、その液晶材料構造の複雑性については参画企業と協議し、知財戦略的な立場から十分協議し対策を練っていただきたい。一つ一つの素材が新規材料ではないので、コンセプト、機能の知財化方針がポイントになると認識している。アカデミアとしてどこまでの技術を提案すれば社会実装に繋がる道が開けるかについても考察し、実践いただきたい。